

平成22年7月21日

「富士モデル事業」

(社)富士市薬剤師会
会長 廣中義樹

◆沿革

平成10年を境に不況などの影響で国内の自殺者が急増、3万人を超えた。20才～40才前半の死因は病気やけがではなく「自殺」が1位になっている。現在も自殺者が減る様子無く、先進国の中ではトップクラスの自殺率である。こうした中、平成17年7月に厚生労働委員会で自殺対策決議が採択され、同年12月政府総合対策会議が開かれた。そして、平成18年10月28日に自殺対策基本法が施行され、内閣府自殺対策推進室が設置された。

(参考;内閣府自殺対策<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/index.html>)

法整備が進む中、労働人口の多い富士市は自殺対策のモデル地区として選ばれ、静岡県精神保健福祉センター主導で「富士モデル事業」が開始された。本事業は、うつ病の早期発見・早期治療を目的とした「睡眠キャンペーン」と、対象者をかかりつけ医から専門医につなぐ「紹介システム」を2本柱として進められた。富士市薬剤師会は平成19年10月から当モデル事業に参加している。

(参考;静岡県HP <http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-810/seishin/index.html>)

◆参加の経緯

当初モデル事業のなかで薬局・薬剤師にできる事は限られていると思われていた。医師などと異なり患者さんに積極的なアプローチをするのは難しく、店内にポスターを貼る程度の協力しかできないようにも思われた。しかし事業の内容を知るにつれ、職能を生かし、他の職業の人にはできない協力の仕方ができるのではないかと考えるようになった。

薬剤師は患者さんに直接触れ診察する事はできないが、睡眠薬(睡眠導入剤)に関して服薬指導することは多く、また不眠や食欲不振など「うつ病」の象徴的な症状をいち早く聞く機会もある。もともと「よろず健康相談所」的な役目を果たしてきた街の薬局が、今回の事業の役に立てる可能性は大きいと直感した。特に薬剤服用歴を活用した情報の収集・集積により、うつ病の初期症状の発見や、市販の睡眠導入剤に頼る患者へのアドバイスなど、薬剤師だからこそできる施策もたくさんある。



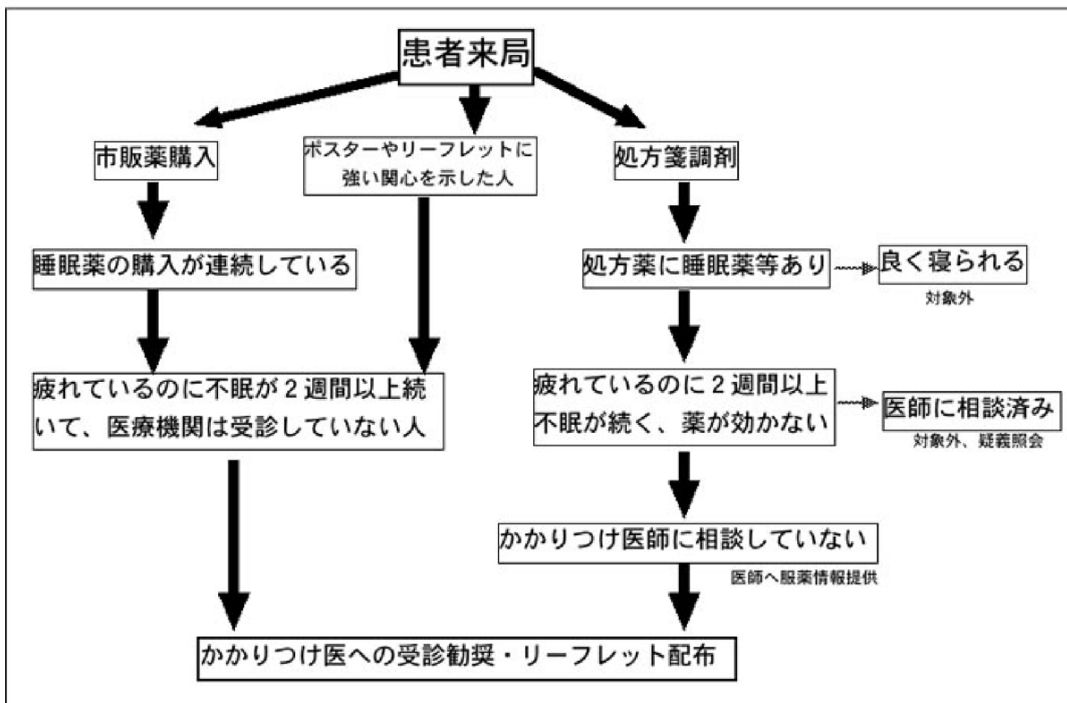
そこで市内の全薬局に事業への積極参加を呼びかけ、説明会と勉強会を実施した。ほとんどの薬局が呼びかけに応じ、順調なスタートとなった。参加を表明した薬局には店内にポスターを貼り、リーフレットをおいてもらった。そして指導内容や指導契機について毎月報告書を提出してもらうようお願いした。

◆対象者選別チャート

薬剤師は薬の専門家ではあるが、病理に関しては知識が浅く、今回のような自殺に結びつくようなうつ症状の話になると、薬剤師全員が十分な知識があるとはいえない。特に受診勧奨が行き過ぎたものになり、患者を「うつ」と断定する「診断行為」ととられる危惧もある。そのため会員に下記のようなチャートで対象者を示し、そういった危惧を払拭するように努めてもらっている。また、うつ病に関する勉強会も継続し、医学的な知識の習得に努めてもらっている。

さて、チャートをよく見てもらうと、薬剤師が行なっている通常業務から逸脱した部分は全くない事が分かって頂けると思う。疑義紹介や医師への服薬情報提供など、毎日あたりまえのように行なっている業務が「うつ自殺対策」に直結しているのである。

リーフレットの配布、受診勧奨の対象者選別チャート



◆お薬手帳

薬局で利用されているモデル事業用のアイテムは、カレンダー、リーフレット、ポスター、お薬手帳などだが、特に「お薬手帳」は他の職種には見られないアイテムである。これは高齢者の健康手帳などと合わせ、個人の薬の服用歴が記載された貴重な情報源であるため、無為に捨てられることなく患者の手元にとどまる。本事業では1万5千部の手帳が配布されたが、富士市の世帯数が約9万7千(平成22年6月現在)である事を考えると、啓発効果は十分あったと考えられる。

(お薬の手帳は、通常の広告や宣伝は入れる事ができないが、今回の事業は公共性が高いと判断され法的な問題はクリアされている。)



◆実績(平成19年10月～平成22年3月)

薬局からの報告は、当初の予想を遥かに上回る数が集まった。かかりつけの患者さんは、いったん対象者から除外されると以降は集計に上がってこないため、対象者数は急激に減るものと考えていた。しかし3年目を迎えた現在においても予想以上の件数が上がってきている。

指導内容はやはり市販の睡眠薬に関するものが多いが、処方による睡眠薬についても指導が続いている事にも注目したい。またポスターを注視(見つめている)する人に対し、こちらから「声かけ」を行ない指導に至った例も少なくない。受診勧奨によって、かかりつけ医(一般医)を受診した患者さんや、専門医を受診した患者さんも少なからず報告されている。

回答薬局数

年度 項目	19年度 (5か月分)	20年度	21年度
回答薬局数	76件	61件	59件
延べ回答件数	338件	462件	377件

リーフレット配架薬局数：87件

リーフレット配布状況

年度 項目	19年度 (5か月分)	20年度	21年度
配布リーフレット総数	319枚	184枚	139枚
リーフレット配布薬局数	50件	23件	20件
1薬局あたり配布枚数	6枚	8枚	7枚

指導実績

年度 項目	19年度 (5か月分)	20年度	21年度
指導総数	223件	132件	95件
指導実施薬局数(*)	42件	21件	15件
1薬局あたり指導数	5.3件	6.3件	6.3件

指導実績内訳

①性別

年度 性別	19年度 (5か月分)		20年度		21年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	120人	53.8%	78人	59.1%	58人	61.1%
女性	103人	46.2%	54人	40.9%	37人	38.9%
合計	223人	100.0%	132人	100.0%	95人	100.0%

②指導の契機（複数回答）

契機	19年度 (5か月分)		20年度		21年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
市販睡眠薬	74人	33.2%	78人	59.1%	63人	45.3%
処方睡眠薬	22人	9.9%	11人	8.3%	12人	8.6%
資料注視	36人	16.1%	16人	12.1%	13人	9.4%
自発的相談	25人	11.2%	7人	5.3%	9人	6.5%
内科的疾患薬の長期内服			7人	5.3%	4人	2.9%
他精神科薬	4人	1.8%				
その他	75人	33.6%	21人	15.9%	2人	1.4%

③指導内容（複数回答）

指導内容	19年度 (5か月分)		20年度		21年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
リーフレット渡し	153人	68.6%	87人	65.9%	81人	58.3%
リーフレット説明	74人	33.2%				
不眠とうつ説明			14人	10.6%	16人	11.5%
受診勧奨	27人	12.1%	24人	18.2%	11人	7.9%
神経伝達物質説明	11人	4.9%	2人	1.5%	0人	0%
相談勧奨	26人	11.7%	13人	9.8%	19人	13.7%
不明	12人	5.4%	22人	16.7%	3人	2.16%

④症状の有無

年度 症状有無	19年度 (5か月分)		20年度		21年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
あり	39人	17.5%	12人	9.1%	8人	8.4%
なし	184人	82.5%	120人	90.9%	87人	91.6%
合計	223人	100%	132人	100.0%	95人	100.0%

⑥表明した対処方法

年度 対処方法	19年度 (5か月分)		20年度		21年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
一般科受診	13人	5.8%	12人	9.1%	7人	7.4%
産業医受診	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
精神科受診	8人	3.6%	9人	6.8%	5人	5.3%
相談機関	3人	1.3%	1人	0.8%	0人	0.0%
表明なし	199人	89.2%	110人	83.3%	83人	87.7%
合計	223	100.0%	132人	100	95人	100.0%

◆今後の展望

うつ病の早期発見によって自殺を予防する事業が「富士モデル事業」だが、不眠を改善する事により、うつ病自体が軽快する逆の症例も報告されるようになった。そればかりではなく、不眠の改善により成人病も改善されるという症例さえ出てきている(久留米大学、内村ら)。

前述したように、もともと薬局は町のよろず健康相談所であり、薬剤師は気軽に話しかけられるもっとも身近な医療従事者である。不眠から気付くうつ病の早期発見に、これほど向いている職業があるであろうか。また多くの薬剤師が、薬学リーダーや学校薬剤師など医療以外の様々な職種とクロスオーバーした業務もこなしている。他業種の人々に「睡眠キャンペーン」を啓蒙していくにも、薬剤師は十分役に立てると信じている。

参考資料

モデル事業の進展に従い薬局薬剤師の働きが雑誌や報道機関で取り上げられ注目されている。

○掲載誌

DURG magazine 2010/7月号巻頭
日本ベルンガーインゲルハイム SSP 2010/5月号
日経新聞 平成 21 年 6 月 30 日夕刊
日経DI 2008/3月号
公衆衛生情報 2008/vol38 3月号
月刊保険診療 2009 /4月号
レフル(明治製菓)2009/2号
Japan Medicine 1455,1428号
調剤と情報(じほう) 2008/vol14
読売新聞「薬剤師会も自殺予防」2007年10月7日
朝日新聞「薬剤師会参加協力」2007年10月13日
静岡新聞「自殺予防薬剤師が協力」2007年10月13日

○テレビ報道

- ・NHK ホットモーニング「命みんなで守る」②
地域力で STOP!自殺、平成 21 年 12 月 2 日放送
- ・日本医師会テレビ健康講座「心の健康イエローカード！
疲れているのに練れないお父さんへ」TBS 系列、平成 21 年 2 月 11
- ・スキッと！静岡「うつ・自殺予防対策」、静岡第一テレビ、平成 21 年 2 月 19 日放送
- ・福祉ネットワーク、緊急シリーズ自殺と向き合う、NHK 教育、平成 21 年 3 月 31 日放送
- ・生活ほっとモーニング「命 つなぎとめたい～自殺者3万人何が必要か～」
NHK 総合、平成 21 年 4 月 15 日
- ・ゆうどきネットワーク「うつ病による自殺をどう防ぐ～」NHK 総合、平成 21 年 4 月 30 日
- ・内閣府広報番組「ご存知ですか」自殺予防週間～富士市の取り組み
日本テレビ系列平成 21 年 9 月 10 日
- ・日テレ G+ 医療ルネッサンス 睡眠障害平成 21 年 9 月

○講演実施先

日本薬剤師会学術大会(滋賀県) 2009年10月
東海学術大会(愛知県) 2008年12月
東京都 町田薬学フォーラム (町田市薬剤師会、病院薬剤師会参加)2009年11月
愛知県薬剤会 (行政参加、同時講演・淑徳大学教授 太田龍朗先生)2009年11月
沖縄県北部薬剤師会(沖縄県薬剤師会理事・行政参加)2009年7月
愛知県衣浦保健所管轄 (西三河地区の薬剤師会・行政参加)2009年8月
自殺対策シンポジウム in 静岡(副知事、久留米大学村上教授ら)2009年9月
静岡県富士市学校保険会養護教員研修会 2009年3月
静岡県沼津市薬剤師会 2010年6月
静岡県内(東、中、西部)で年内開催予定
福岡県久留米市、滋賀県薬剤会で年内開催予定

○視察団受け入れ

岐阜県・いのちのサポートひだ理事会員、埼玉県上尾市・平塚市保健センター職員

○その他

内閣ホームページ自殺対策白書に「薬局での受信勧奨」として掲載中
内閣府作製うつ自殺予防対策 DVD に薬剤師の働き収録